

本市における令和4年度認知症施策推進事業の取組について

1 普及啓発・本人発信支援

(1) 認知症に関する理解促進

- 清須市のキャラバンメイト及び認知症サポーター数 (令和4年3月末現在)

認知症キャラバンメイト数	実人数 152人
認知症サポーター数	延べ 8,667人

※キャラバンメイトとは…認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を務めていただく方（キャラバンメイト研修の受講、登録が必要）

※認知症サポーターとは…認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者。市町村や職場などで実施されている「認知症サポーター養成講座」を受講した方

- 認知症サポーター養成講座

- ・小中学校：福祉実践教室の一環として実施
(清洲小・星の宮小：9月、清洲東小・新川小：11月)
- ・市民公開講座：9月 8日（木）市役所南館3階大会議室
- ・行政出前講座：7月13日（水）市役所北館2階第1会議室

- キャラバンメイト・サポーターミーティング（スキルアップ研修会）の開催

認知症になっても安心して地域の中で暮らしていくためにできることは何か、認知症キャラバンメイト及びサポーター同士で意見交換をし、チームオレンジとして活動できるよう支援していくことを目的とした。

日時	6月28日（火）
対象	認知症キャラバンメイト及び認知症サポーター：18名出席
内容	1 認知症施策と令和3年度活動報告 2 家族介護者からの講話（体験談等） 3 チームオレンジについて 4 個人・グループワーク 【テーマ】「認知症になったらこんな風に暮らしたい」 「こんな仕組みがあったらいいな」

(2) 相談先の周知

- 地域包括支援センター（総合相談）の啓発

チラシの作成、福祉出前講座等での周知、市・社会福祉協議会のホームページや広報掲載

- 認知症安心ガイドの作成（更新）・配布（市民、市内医療機関、介護事業所等）

認知症ケアパス、認知症チェック表の活用

- 認知症チェックサイトの運営（アクセス数：令和3年度1,682件）

2 予防

認知症予防に資する可能性のある活動の推進

- 清須市民げんき大学

- チャレンジ教室

- やろまいか教室

- いこまいか教室

- 地域リハビリテーション活動支援事業

3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

(1) 早期発見・早期対応、医療体制の整備

- 総合相談の実施
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症地域支援推進員の設置
- 認知症疾患医療センターとの連携

(2) 認知症の人の介護者の負担軽減の推進

- 認知症カフェ清洲の里：かぼちゃカフェ、ペガサス春日：なごみカフェ
- 家族介護者交流事業（地域包括支援センター）

内 容	回 数 等	会 場
家族介護者交流カフェ & オレンジカフェ	月 1 回 1 時間 30 分程度	清洲総合福祉センター、春日老人福祉センター にしびさわやかプラザ、新川福祉センター
介護講座	2 回、2 時間程度	清洲総合福祉センター、にしびさわやかプラザ
リフレッシュ事業	1 回、日帰り旅行	計画中

4 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

(1) 地域支援体制の強化

- 高齢者見守り活動：46か所
- 認知症高齢者等の事前登録：75件
- パトロール DOGS 事業：16件

(R4.8.1 現在)

(2) 成年後見制度の利用促進

① 成年後見制度の利用に関する現状の取組

本市では、成年後見制度の利用助成に関して、「清須市成年後見制度利用支援事業実施要綱」、「清須市地域生活支援事業実施要綱」で審判の請求費用、成年後見人の報酬の助成を実施している。

② 成年後見制度に関する課題

- ア 高齢者人口、ひとり暮らし高齢者数、要介護認定者数、療育手帳・精神障害者保健福祉手帳取得者数が増加している。
- イ 地域包括支援センターへの相談件数において、お金に関すること、成年後見制度に関する相談件数が増加している。
- ウ 清須市の成年後見制度の利用支援事業について、高齢者と障害者において、制度内容が異なっている。

成年後見制度の利用の必要性が高まっているが、成年後見制度の利用者数は、近年横ばいであり、制度があまり利用されていない状況となっている。
 今後は、成年後見制度の周知とともに、制度を必要としている人が利用できるような体制を整備する必要がある。



清須市成年後見センター（仮称）の設置

令和4年度に清須市成年後見センター設立準備委員会を設置しており、準備委員会（3回開催）での協議を経て、令和5年度中での成年後見センター設置を目指す。